

留学生「伝統学び 独自表現を」

崇城大芸術学部で日本画を学ぶ欧州の留学生3人が、熊本市中央区の「SOJO GALLERY」で開催中の美術学科日本画コース展に出品している。熊本で受けた刺激と伝統的な技術を取り込んだ意欲的な作品が並ぶ。



崇城大芸術学部で日本画を学ぶ留学生のクララさん(右)、ゾーイさん(中央)、リンさん
=熊本市中央区

仏エクサンプロヴァンス市の美術学校で学ぶリン・サルビー・デモリソンさん(22)とゾーイ・アモウさん(23)、独バウハウス大のクララ・ルイゼ・ベルンハルドさん(24)。

リンさんとゾーイさんは新しい絵画技術を学ぼうと、9月に来熊。アニメをきっかけに日本に興味を持ったクララさんは、高校生の時に熊本に留学し、バウハウス大と交流がある崇城大で日本画を学ぶために再び来熊した。

海外で美術を学ぶ場合、専攻を絞らず、インスタレーションや絵画、彫刻など幅広く取り組み、制作スピードも速い。一方、日本画は時間をかけて制作するため、3人は「じっくり待つことの大切さ」を学んだという。

会場では、日本画コースの学生29人が授業で制作した花鳥画など約60点を展示。「熊本の街の色と存在感を気に入っている」というリンさんは鮮やかなクモ、ゾーイさんは自国にはない電線をモチーフに描いた。クララさんはハスやモミジをあしらったびょうぶを並べる。

「日本の伝統的な技術を取り入れ、独自の表現をしていきたい」と3人。指導する中村賢次教授(59)は「日本画の根底にある日本の文化に触れ、感じたことを持ち帰ってほしい」と話す。展示は25日まで。